

特定秘密保護法 12月10日施行を閣議決定

小川町議会では、秘密保護法撤廃の請願を否決

各界国民の猛烈な反対（世論調査では、国民の6割近くが反対。賛成は2割前後にとどまっています。）を押し切って、自民、公明両党が強行採決して成立させた特定秘密保護法。政府は、施行期日を12月10日と決定しました。これに先立って実施された、運用基準について意見公募（パブリックコメント）には、2万3000件以上（8月末現在）の意見が寄せられ、今回、27か所の修正をおこないました。しかし、秘密保護法の危険性は依然として残されたままです。この法律は、安倍政権が7月1日に強行した集団的自衛権行使容認の「閣議決定」と連動して、アメリカと一緒に「海外で戦争する国」づくりのための法制であることが、鮮明になっています。

小川町の住民有志「特定秘密保護法撤廃を求める小川町の会＝笠原恵子代表＝」は、秘密保護法の撤廃を求める意見書を町議会で採択するよう633名の署名を付して9月議会で請願しました。しかし、議会はこれを否決しました。この審議を通じて、議員の多数はきちんと住民の方を向いて、その声に耳を傾けるのではなくて、政権に追従の姿勢であることがはっきりしました。請願に賛成した良識ある議員は、井口亮一、金子美登、松本修三、柳田多恵子の4名（11月1日発行議会報による）でした。

行政機関名	件数
内閣官房	35万3144
防衛省	5万5878
外務省	2万1826
公安調査庁	1万5292
警察庁	1万3951
海上保安庁	9450
国土交通省	723
経済産業省	435
原子力規制委	410
総務省	311
財務省	217
厚生労働省	143

新聞報道等によると、12月10日施行に伴って、政府が指定予定の「特定秘密」が47万件以上に上ることが分かりました。その主なものは左表の通りです。

47万余件が秘密のベールの中

具体的な内容は何か？ それは秘密で、分からない。国会議員でも分からない。国民がこれを聞いたり、知ったり、漏らしたりしたら厳罰！

行ってみませんか！

埼玉県で教育子育て九条の会の大きな集会が開かれます。第7回全国交流会です。期日は12/7、会場は埼玉共済会館(浦和駅下車、県庁方面に歩いて7分)。入場無料です。

許すな戦争する国・人づくり 守ろう子どものいのちと人権

憲法を地域に生かそう！

*いつ 12月7日(日) 10:00~16:00

*ところ さいたま共済会館(さいたま市)



小森陽一さん



香山リカさん



三上満さん



田中孝彦さん



佐藤学さん



上原公子さん



石山久男さん



依義文さん

第1部 10:00~12:00 4つのテーマ別に学ぶ

『いまこそ 憲法を知ろう 語ろう』
小森陽一さん(九条の会事務局長)
集団的自衛権で子ども、若者の未来はどうなる

『教育、教科書が危ない』
依義文さん(子どもと教科書全国ネット21事務局長)
石山久男さん(歴史教育者協議会)
安倍「教育再生」で教育、子どもはどう変わる。
教科書、教育委員会制度、「道徳の教科化」

『子育ての仲間づくり』
三上満さん(教育家) 田中孝彦さん(教育学者)
保育園・学校・学童そして特別支援、一人で悩まないで

『学ぶ・働く・つながる～生きづらさをのりこえて～』
香山リカさん(精神科医)
若者に増える心の病はどこから
若者が直面する現実

第2部 13:00~16:00 みんなで語り合い交流

*「憲法をめぐる動きと日本の未来」
小森陽一さん

*埼玉の若者たち
被災地支援の様子、地域での活動など

*埼玉のとりのくみ
教科書・採択問題、奨学金問題ネットワークなど

*リレートーク
全国の活動の報告、よびかけ人のメッセージ
上原公子さん(元国立市長)
佐藤学さん(教育学者)

※参加費無料
カンパをお願いします
※保育あります
1歳以上・事前申し込み

主催:教育子育て九条の会/第7回全国交流集会埼玉実行委員会
連絡先:教育子育て九条の会 03-3255-6860/埼玉実行委員会 048-831-4266

ご案内

嵐山「九条の会」講演会 参加協力券 800円

講師:高橋宗瑠さん「紛争地の現実と憲法九条」
日時:11月15日(土) 午後1時30分~3時30分
会場:嵐山町ふれあい交流センター

高橋宗瑠さんは、前国連人権高等弁務官事務所パレスチナ被占領地区副事務所長。2009年から5年間のパレスチナでの活動を踏まえて、紛争地(イスラエルガザ地区)の現実と憲法九条を持つ日本の役割についてお話をいただきます。

リレーメッセージ



「聞いて!聞いて!私の声」・・・「おがわ町九条の会」では町のみなさんのいろいろな声を集めてゆきます。「九条へのおもい」「平和への願い」「現状への不平・不満」などなど、みんなに聞いてもらいたいことを、どうか事務局までお届けください(匿名でも結構です)。新井喜代美さんからご投稿を頂きました。ありがとうございました。

九条を守りきること

腰越 新井喜代美

今年のノーベル平和賞に憲法九条が候補の首位に上がって、私たち多くの九条ファンが大きな期待をかけていましたが、平和賞はパキスタンの少女 マララ・ユスフザイさんとインドのカイラシュ・サティアルティさんの二人でした。毎日テロや戦闘の脅威にさらされている、南アジアのお二人の活動は更に発展し、世界平和に貢献されることでしょう。

一方、「憲法九条に平和賞を!」と言う願いも「署名」となって、国の内外から44万筆がノーベル委員会に寄せられたそうです。平和賞の選考では、憲法九条を保持してきた日本国民が候補になったことが注目されたということです。今政府は憲法解釈によって、集団的自衛権で戦争への道を開き、憲法九条を壊そうと強引に進めています。この憲法九条を守る運動を広げることこそが今、私たちに試されているのではないのでしょうか。そして九条を守りきるからこそが平和賞受賞につながるのだと思います。今始まった、おがわ町九条の会の署名運動、みんなで頑張りましょうね。

「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会」引き続き署名を継続

「世界の平和を願い、「戦争しないほしい、仲良くしてほしい」という素直な、素朴な平和を求める声を世界中で大きくするために、国を超えて世界中の平和を愛する人たちと手をつなぎ、それぞれの政府に戦争させないように働きかけ、置かれたところから、世界の平和を願う1人ひとりの小さな声と力を合わせて頑張っていきましょう!署名は年度に関係なく累積します。ノーベル平和賞を授与されるまで署名100万人を目指します。」(鷹巣直美さん)

ノーベル委からは「日本国民」を来年も平和賞にエントリーするとの趣旨のメールが届いているそうです。(「おがわ町九条の会の署名」「憲法9条にノーベル平和賞を署名」とともに事務局にあります。ご連絡ください)



11月24日
集会 13:00~14:30
開場 12:30 (11:00より入場整理券配布)
パレード 15:00 出発
日比谷公会堂

主なプログラム
 ●よびかけ人あいさつ
 ●各地・各分野から「月間」の取り組み報告
 ●朗読劇「非戦を選んだ演劇人の会」

入場無料
 申込不要
 手紙あり

九条の会11・24集会&パレード運営委員会
 〒101-0065 東京都千代田区高神田2-5-7-303 TEL. 03-3221-5075

憲法九条

1. 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない

滑川町議会では、集団的自衛権撤回の請願を可決

滑川町議会は9月の定例議会で、「集団的自衛権行使を容認するような閣議決定の撤回を求める意見書」案を賛成多数で可決し、総理大臣、官房長官、衆参両院議長に提出しました。

発端は、市民放射線測定所「森の測定室・滑川」=主山しのぶ代表=に集まる若い母親たちの声でした。小さい男の子三人を持つ母親が「こんな大きな問題を、話し合わなくていいのだろうか」と問題提起。「将来、子どもたちが戦争に巻き込まれるかもしれない。町の大人たちが何もなかったということだけは避けたい」と、8月中旬に約10人が集まり、町議会に対し、閣議決定の撤回を求める意見書を国に提出する請願を出すことにしました。9月上旬から2週間で556人の署名を集め、町議会に提出。9月1日の総務経済建設委員会で請願が全員一致で採択され、本会議に議員提出され、可決されたものです。

この意見書は、安倍政権が7月1日に行った集団的自衛権の行使を容認する閣議決定に対し「世界中で戦争の放棄をうたった憲法は日本にしか実現していない。今こそ、無理な解釈をして拙速に武力行使を容認するのではなく、唯一無二の平和憲法を広く世界中に広めることである」としています。

新聞投稿から (2014/10/24 東京新聞)

滑川町こそが ついのすみか

会社員 (埼玉真滑川町) 81

「将来、子どもたちが戦争に巻き込まれるかもしれない。町の大人たちが何もなかったということだけは避けたい」と男の子三人を持つ母親が一人立ち上がった。十人の仲間と、集団的自衛権の閣議決定撤回を求める署名を集め、町議会に請願、意見書が可決された。東京新聞にあった。埼玉真滑川町のことである。若い母親たちのこの活動を全く関知しなかった自分を取扱った。妻を亡くして三年。もう愛着も執着もないこの町を、いつの日か去る覚悟はできていた。しかし、この母親たちの、子らを決めた。町の若いお母さん、この町をついのすみかと思っていちずでけなげな姿を思い、自然の豊かな、情を感じ、私に生きる勇気と、感動をくれ、ありがとうございます。

分を取扱った。妻を亡くして三年。もう愛着も執着もないこの町を、いつの日か去る覚悟はできていた。しかし、この母親たちの、子らを決めた。町の若いお母さん、この町をついのすみかと思っていちずでけなげな姿を思い、自然の豊かな、情を感じ、私に生きる勇気と、感動をくれ、ありがとうございます。

秘密法反対! 学生がデモ 私たちは黙らない!

「渋谷のみなさんお元気ですか。僕たちは秘密保護法に反対です!」。そんな掛け声を皮切りに10月25日、「特定秘密保護法に反対する学生有志の会(SASPL(サスプル))が、東京・渋谷の街をデモ行進しました。約2000人の参加者が音楽のリズムに合わせ「民主主義ってなんだ」「憲法守れ」「言うこと聞かせる番だ俺たちが」とコール。大阪や京都、静岡など遠方から参加した学生もいました。(本記事はネットニュースや新聞からの引用です)

明治学院大2年の女性(20)はスタッフとして参加。「先輩から特定秘密保護法の危険性を聞き、自分でも勉強した。施行を前に、このまま何もしていない事が辛くなった」と話し、SASPL主催デモへの参加は今回で2回目という女性は、「前は参加者だったが、今回は人を巻き込む側に回った。法が施行されたから諦めるのではなく、私たちがこの法とどう向き合っていくのかを考えたい」と語り、立正大2年の男性(20)は安倍政権に対して「恣意的な政治をしている。国民と一緒に国を作っているようには見えない」と危機感を抱く発言をしていました。

SASPLは同法案が施行される12/10にも首相官邸付近でデモを呼びかけています。

